

討 論

決算審査特別委員会（9月12日）および定例会最終日（9月22日）において、第55号議案に対する討論が行われました。

定例会最終日に行われた討論の主な内容は、次のとおりです。（紙面の都合上、要約しています。）

◎第55号議案・令和3年度白石市一般会計及び特別会計歳入歳出決算の認定について

反 対 高子 秀明

本案について総論賛成、各論反対の立場で討論する。

ここ数年の本市財政は、国庫支出金等の増額に伴い決算額の規模は膨らみ、経常的一般財源の規模を示す標準財政規模は100億6千26万円となっている。

財政の善しあしを表現するものの一つである財政調整基金は、一般的に標準財政規模の10%程度が適正とされるため、令

和3年度の適正額は約10億円となるが、本市の財政調整基金は現金および債券等の合計額が約34億円を超え、令和2年度末との対比で約8億3千万円の増加、この基金を含む本市の22基金の合計額も100億円の大台を超え、積み上がったものとなっている。

一方、市債残高は約108億3千万円、うち臨時財政対策債は約51億9千万円であるが、主要な財政分析指標である財政力指数等は例年どおり健全な財政状況を示し、極めて良好であると読み取れる。これも全庁挙げての努力のたまものであることに異論の余地はない。

しかし、これら良好な状況が、提案される過程において、事あるごとに「財政が厳しい」と不安をおおると思われる表現の根拠がどこから来るのか疑問を感じる。

各論反対の大きな理由は、白石市外二町組合への繰出金にある。令和元年度および令和2年度の公立刈田総合病院決算において、資金不足調整額が生じたことから、本市の令和3

年度当初予算時、繰出金の見直しが必要であると訴えてきたが、令和2年度と同額の予算となり、前年度同様、補正予算で約6億円余りの繰出金が計上された。

白石市外二町組合に対する繰出金が3年前から減額されたことで公立刈田総合病院は経営難となり、銀行からの融資も難しく、一時借り入れなど借金に頼らざるを得なくなったと見て取れる。令和3年度は、実質単年度収支額7億1千639万3千円の黒字決算となっているが、財政調整基金の残高から見ると、財政運営上、これが適正であったのかどうか疑問である。

本をたたせば令和2年3月、指定管理者制度による公設民営化案を表明したことで、公立刈田総合病院の経営状況、みやぎ県南中核病院との連携体制は、重点支援区域申請時の想定とは大きく乖離したことが原因ではないか。

コロナ禍において、病院職員全員で収入を上げようと努めても、なおも巨額の債務を抱え

てしまった状況は、病院職員とこの地域の医療の疲弊を招く結果となったことも指摘する。

最も重視すべきは、まちづくりの根幹である市民の命と健康を守る公立刈田総合病院の経営安定が、最優先で求められていたことではないか。そして、行財政を執行する際、市民の理解や協力なくして成就しないと考ええる。

行政は、市民に真摯な姿をさらけ出し、理解される努力を惜しまず進む姿勢の必要性を強く感じてやまない。残念ながら令和3年度決算において、本当の意味での市民本位が欠けていると言わざるを得ない。

以上の理由から第55号議案に反対である。

賛 成 佐久間 儀郎

猛威を振るう新型コロナウイルス感染症は、本市においてもあらゆる面において甚大な影響を及ぼしている。

令和3年度は、高齢者や生活困窮者の支援事業に力を入れるなど、昨年度に引き続き扶

助費をはじめとした義務的経費が増加し、思うほどに投資的経費に手当てする余裕がない状況が続いた年であった。依然として経済水準はコロナ禍前を下回る。こうした厳しい財政環境下において、白石市行財政改革推進計画「集中改革プラン（第四次改訂版）」に基づき、業務の効率化や自主財源の確保、経費の節減、合理化などを推進し、質の高い行政運営と健全財政の維持に積極的に取り組まれた決算であると考ええる。

これは、財政力指数が前年度と比べ0.008ポイント下降しているものの、財政構造の弾力性を示す経常収支比率、一般財源に占める公債費の割合である公債費比率および将来にわたる財政負担はそれぞれ前年度よりも良化しており、おおむね健全な財政状況であることから認められるものである。

一般会計において、実質単年度収支額は前年度に続き黒字計上となったが、これは財政調整基金の取り崩しを新型コロナウイルス関連の交付金によ